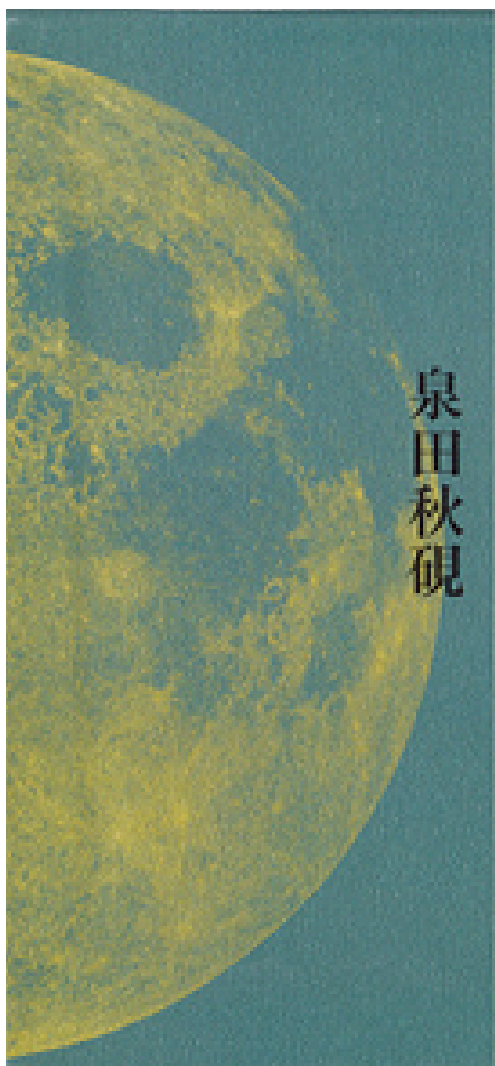


句集

月に逢ふ

泉田秋硯



雲海や大吟醸を廻し呑み

麻服に皺蓄へてダンディズム

大好きな月見草にて犬尿る

霊の数ほどの藪蚊を迎へけり

月のぼる忍び返しの塀越えて

床の間に朱欒を据ゑてよりの運

散骨の意志以て仰ぐ天高し

穴惑日向に未練残しけり

熟柿吸ふ脳死の記事を盗み見て

手配写真あり熱爛の販売機

鴨さばくゾーリンゲンの骨鉄

手袋の懈怠許さず五指入れて

降る雪や海を真水にせむとなり

まんぼうは浮いてゐるだけ冬麗

薄氷の融けて全き金閣寺

葬式に役立つ写真山笑ふ

陽炎の殊に濃かりし象の墓

海中のマンタの飛翔万愚節

剃刀を試す二の腕花明り

退屈な河馬につき合ひ暮れ遅し

螢狩闇にほとほと疲れけり

蠅飛んで気まづき黙をはぐらかす

青大将毛生え薬の老舗より

人妻にやさしき男百日紅

掻き氷三八さんぱち銃を知らぬ子と

蝸や女も一番風呂が好き

所詮来る人もなき道水を打つ

月浴びて全身の血が蒼くなる

何時からが晩年なるや曼珠沙華

天高きことを申して除幕式

艶やかな林檎が乗りて置手紙

S L に道を開きて芒枯る

不機嫌なポーズ海向く懐手

直立歩行以来代々大噓

標的でなくてよかりし弓始

牡丹雪檻からゴリラ手を伸ばす

河馬の歯を磨く始終を着ぶくれて

埋め立てて増やせし領土草萌ゆる

たんぽぽの只中地熱発電所

桜鯛空気の中で窒息す

東司より眺むる濁世さくら咲く

朧夜の口笛止みてすれちがふ

紫外線まみれの凧を引きおろす

身内にてそつと摘みたる一番茶

薔薇へ手の届かぬ距離に乳母車

田水張り雲の遊ぶに任せけり

卯浪その相剋を世も忘れざる

靈界を見過ぎし疲れ螢狩

蚊帳吊って体験旅行児鎮めけり

靈長類研究所より夏帽子

著者略歴

泉田 秋硯(いずた しゅうけん)

本名 春樹(はるき) 旧姓 浜田

大正15年3月30日 島根県松江市生

昭和20年 京大俳句会幹事長

平成6年 月刊俳誌「苑」主宰

俳人協会会員

NHK京都文化センター講師

兵庫県俳句協会理事

句集

つき あ
月に逢ふ

著者

泉田秋硯

発行者

北 冥 社

発行人 小島 哲夫

2001年2月10日発行

B6変形 二句組

PDF製作 俳誌のサロン